

最上地域

② 自然環境保全活動

【舟形町取り組み（市町村事業）】

舟形町では町指定天然記念物に指定され、観光地でもある「念仏の松」の保全のために、地域住民と町が協力し、周辺森林の除草作業や松くい虫防除作業等の環境保全活動を行うことによって、町内外へ自然保護の大切さを伝えています。

また、地元長尾町内会役員が講師となり、児童や地域住民へ念仏の松の由来や歴史の学習会を開催し、文化財保護思想や自然環境の保全に対する理解を深める機会を作ることや、地域住民が自ら保全を行うことによって、「念仏の松」について深く知る機会を作り、若い世代が天然記念物を次世代につなげる意識の醸成を図っています。



地域住民による保全活動

置賜地域

④ 木に親しむ環境づくり

【飯豊町取り組み（市町村事業）】



親子で椅子づくり

飯豊町では、子どもたちに木の大切さ自然の大切さを理解してもらうことや、大工さんの仕事を知ってもらうことを目的に木工教室を毎年実施しています。

今年は、令和6年9月7日（土）に町民総合センター「あ～す」で開催されためざみの里まつりのなかで「親子木工教室」を実施し、おきたま産の木材を使った椅子の作成体験を行いました。

地元の大工さんに椅子の組み立て方を教えてもらい、四苦八苦しながら自分で座る椅子を親子で作製し、身近にある木や森の大切さについて関心を持ってもらえるようにPRしています。

庄内地域

③ 森や自然とのふれあい活動

【特定非営利活動法人 明日のたねの取り組み（県民提案型）】

今年度で7回目を迎えた「森のようちえん♪」では、未就学児親子を対象として、大人も子どもも楽しむことを大切に、四季の移り変わりを感じながら庄内の豊かな自然に触れる体験を提供しています。

今年の活動では、親子で一緒にネイチャーゲームや森林散策を楽しんだり、親と子があえて別行動をとり、子どもはネイチャーゲーム、親は自然の恵みを使ってヒンメリ作り等の手仕事に取り組んだりしました。

この体験の積み重ねが子どもたちの原体験となって、自然の豊かさや命の尊さを体を通して理解する場、大人にとっては追体験する場となると考え活動しています。

そして、この体験を通じて地域の森林資源の大切さや環境保全への意識が高まることも期待しています。



ネイチャーゲームの様子

自然環境保全対策の推進

森林・生物環境の異変を早期に察知し対策を行うため、野生動植物の生息・生育調査を通して、自然環境の変化を継続的に監視しています。

生物多様性戦略推進事業

目的：県内の動植物の生育・生息の動向把握

内容：動植物の生育・生息調査

ブナ・ナラ豊凶調査

希少野生生物の調査

県NT

カキラン

県NT

パイカモ

県NT

ハツチョウトンボ

県VU

ミススマシ

県CR

スギラン

県EN

クマガイソウ

調査状況

県NT

セスジイトトンボ

県VU

トキソウ

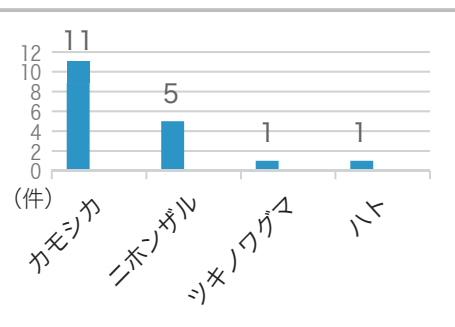
【絶滅への危険性大】 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類＞VU：絶滅危惧Ⅱ類＞NT：準絶滅危惧 【現時点では小】

大型野生鳥獣等 野生復帰事業

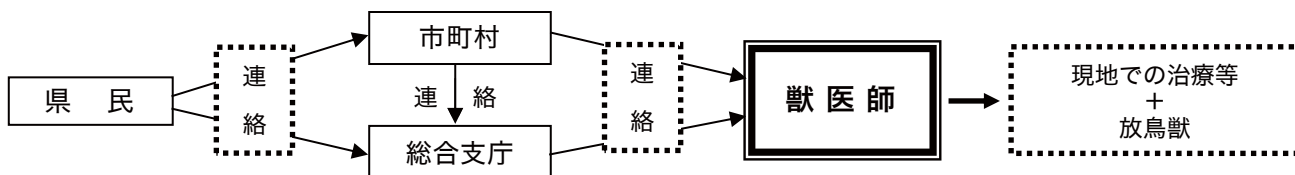
ケガや病気等で救護や捕獲された、森林に生息する大型野生鳥獣を野生に復帰させるため、獣医師による治療、訓練、生息地での放鳥獣等を行っています。

令和6年度実績（R6.11.30現在）

錯誤捕獲から救助したカモシカ



【実施スキーム】



ツキノワグマの生息状況調査

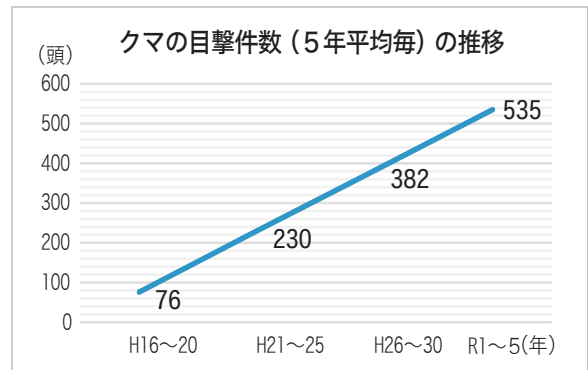
県内のツキノワグマの生息数を把握するため、目視調査とカメラトラップ調査を実施しています。

近年クマの目撃情報が増加しています。生息状況調査は、適正な保護管理を行うために必要不可欠な基礎資料となります。

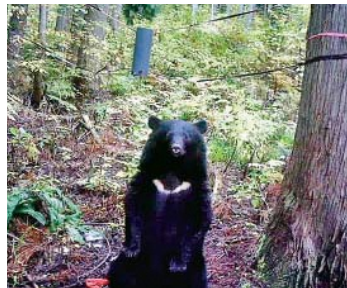


目視調査

残雪期（4～5月）にクマの生息域に入り、目視によりクマを数え、生息密度を算定し個体数を推定。



5年平均で見ると着実に増加傾向



カメラトラップ調査

自動撮影カメラを用い、トラップによってツキノワグマの胸部を撮影し、胸部の斑紋の特徴から個体を識別する方法。

県民の宝である「樹氷」の復活に向けて

蔵王連峰の標高 1,300 m から 1,700 m の亜高山帯に多く自生する針葉樹であり、樹氷を形づくるオオシラビソ（アオモリトドマツ）が、虫による食害等により、広範囲で枯死しました。

「山形県民の宝」である樹氷の景観を復活させ、将来世代に手渡し、その恵みを脈々と守り続けることができるよう、令和 4 年度に「樹氷復活県民会議」を設立し、林野庁が行うオオシラビソ林再生に向けた取組みを支援しています。

オオシラビソの植生の復元の支援

◎県圃場への播種及び育苗

蔵王温泉ユートピアゲレンデ（標高 1,400m 付近）に県圃場 16㎡を整地し、種からオオシラビソを育苗

◎自生稚樹移植体験

次世代を担う子どもたちがオオシラビソの自生稚樹を地蔵岳山頂付近に移植



環境課題に取り組む機運の醸成

- *特設ホームページでの活動紹介等の情報発信
- *樹氷復活サポーター制度による機運の醸成
- 27企業・団体を認定(12月末現在)
- *蔵王坊平地域でのオオシラビソの生態等を学ぶ環境体験学習を実施

樹氷復活・育成応援基金

皆さまからの寄付を基金に積み立て、樹氷を次世代に繋ぐための取組みに活用していきます。
ふるさと納税による寄付も受付けています。

企業の森づくり活動（やまがた絆の森）について

やまがた絆の森づくりってなに？

森林を通して、地域や環境のために貢献したいという企業や団体が、森林の所有者の方と協定を結んで、森づくり活動を行う取り組みのことです。県がコーディネーターとなり、企業等と森林所有者をマッチングします。2者で活動地及び活動地の名称、期間、活動計画などを話し合って決め、その内容を明示した「やまがた絆の森協定」を結び、活動を行います。



ミドリオートレジャー(株)×山形市×山形県



エコマネジメント(株)×(一財)田沢自彊会×山形県
協定締結式の様子

でん六 幸せの森

所在地：上山市小倉大森

面積：1.25ha

協定者：株式会社でん六、小倉生産森林組合、山形県

活動内容 「豆はでん六」のフレーズでもおなじみのお菓子の製造・販売を行っている株式会社でん六では、企業としてSDGs 経営を推進する中で、「地域の自然・環境の保全」を優先課題の一つに掲げています。工場で使用している蔵王の伏流水の水源である上山市の森をそこで同社が「でん六 幸せの森」と名付け、森づくり活動を開始しました。

活動では社内の有志が集まり、下刈りや除伐作業を行っています。作業終了後には、参加者同士が昼食を楽しみ、社員同士の親睦を深めています。また、活動には、鈴木社長も参加することで、環境保全の重要性について社員一人ひとりが考えるきっかけとなったようです。

今後は森林整備を続けながら「でん六 幸せの森」を観光資源として活用することを目指しており、森づくり活動を通して地域社会とのつながりを強化し、企業としての社会的責任を引き続き果たしていくことを目指しています。



集合写真



森林整備の様子

森づくりサポート体制について

県では、県民参加の森づくりを推進するため、「公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構」と連携し、森づくり活動の現場を様々な面からサポートしています。

同法人は、樹木医、森林インストラクター、自然再生士、ビオトープ管理士等の資格を有する職員のほか、樹木、昆虫、木工など、さまざまな得意分野に精通した専門家を人材として登録しており、現場の要望に応じた指導者を派遣しています。

木を育てたい、子どもたちを森に連れていきたい、手入れしている森を素敵な場所にしたい・・・けれど、どうしたらいい!? 悩んだときは、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構に御相談ください。

電話番号 023-688-6633 FAX番号 023-688-6634 メールアドレス gcenter@jan.ne.jp